UltraLight-Scenario

汝の隣人を愛せよ（ゴースト）

ゾンビ映画をモチーフとした、ニューロエイジならではのサイバーサイエンス・ホラー。
義体化で打ち捨てられた生身に残された魂（ゴースト）が、今よびさまされる。
（掲載日：2016.6.23）

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者
あるばがると（twitter：@Alba_gard）

▼プレイヤー人数
2～3人

▼想定プレイ時間
2.5 時間

▼シナリオタグ
ホラー、ゴースト、千早グループ

● UL シナリオ

本シナリオは「UL（超軽量）シナリオ」だ。UL シナリオについての詳細は以下のサイトを参照のこと。
http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/UL_NOVA.html

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし､使用するデータの変更や RL が調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点
0～100 点

▼達成値制限
制限なし。
ゲストデータの最大達成値は 21 である。

▼ RL が使用するルールブック
『TNX』

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

チハヤ生体管理社――そこには義体化のために捨てられた生身が、冷凍保存されている。
彼らは持ち主のもとに帰る日を夢みて、静かに眠りつづける。そのはずだった。

しかし、カルヴァーニ博士の狂気が、彼らのゴーストを呼び覚ます。
切断された手足が床を這いずり、脳なき身体が人を襲う！
施設はまたたく間に、生ける肉体（リビング・ボディ）が徘徊する地獄絵図となりはてた。
事態の収拾をはかるべく、千早雅之はプロフェッショナルを呼び集める。

豪華キャストでおくる新時代サイエンス･ホラー。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『汝の隣人を愛せよ（ゴースト）』

かくて、運命の扉は開かれる……。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。
『①クグツ』：企業戦士（『TNX』P86）
『②ニューロ』：ニューロキッズ（『TNX』P98）
『③カゼ』：災厄のカゼ（『TNX』P92）

●コンストラクション

コンストラクションで作成する場合、取得すべき推奨スタイルはない。

●必要な神業

ゲストが使用する即死系神業だけでキャストが死亡することを防ぐため、キャスト全員で1個以上の防御系神業が必要だ。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会:企業、テクノロジー〉などである。

●特記事項

本シナリオで使われるゴーストという言葉は『TNX』P150において定義されているルール用語のことではない。肉体と切り離した人の本質、すなわち"魂"をさすニューロタングである。

●N◎VAクルード

基本ルールに準じたルール処理と、N◎VAクルード（『CHM』P16）に準じたルール処理が併記されているので、状況に応じてどちらかのルールを選び、その指示に従うこと。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは【ＣＳベース】の高いキャストから順番に取得する。

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。
キャスト全員：千早雅之に雇われたプロフェッショナル

キャスト共通ハンドアウト

SCENARIO HANDOUT

コネ：千早雅之

推奨スート：外界

千早グループの子会社、チハヤ生体管理社で事件は発生した。冷凍保存されていた肉体が動きだし、人々を襲い始めたのだ。その背後には施設の主任技術者であるカルヴァーニ博士の姿があるらしい。千早雅之の依頼を受けたキミ達は、からっぽの肉体達に支配された施設への潜入を試みる。

【ＰＳ：カルヴァーニ博士を確保する】

SCENARIO HANDOUT

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

10年前、カルヴァーニ博士は「義体化によって切除された肉体にもゴーストが宿っている」という仮説を発表した。この仮説は義体メーカーにとっては到底受け入れられるものではなく、カルヴァーニ博士は学会を追放されてしまう。自身の仮説を信じた博士は、肉体に残ったゴーストを救済すべく、狂気の研究に着手した。

そして現在。チハヤ生体管理社に保管されていた肉体が動き出し、人を襲いはじめる。施設はまたたくまに脳のない肉体によって、占拠されてしまった。この事件の背後には、ゴーストの革命をうたうカルヴァーニ博士の姿があった。

キャスト達は千早雅之の依頼によって施設に侵入し、事態の原因を探る。カルヴァーニ博士を倒したならば、アクトは終了となる。

■クライマックスの条件

カルヴァーニ博士のアドレスに向かうと、クライマックスになる。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1：禁断の仮説

ルーラーシーン

登場：不可

◆解説

およそ10年前を舞台としたルーラーシーン。カルヴァーニ博士が学会を追放されるきっかけとなった発表の様子。彼の発表は途中でさえぎられ、壇上からつまみだされてしまう。

◆描写

新星帝都大学で行われたサイバネティクス・シンポジウム。その壇上で、ひとりの男が雄弁をふるっている。

▼セリフ：カルヴァーニ博士

「人の魂はどこに宿るのか。それは災厄以前から人類を悩ませてきた難題だ」

「我々は今日、そのありかを脳とさだめている。しかし本当にそうなのだろうか？　なぜ人間の質量のうち、たった2%の器官がゴーストを占有しているといえるのか。私はこの通説に異を唱える。人間のゴーストは神経にある……脳だけではない、全身の神経系に遍在しているのだ！」

「義体化によって生身を捨てるとき、我々は己のゴーストの大部分もともに切除しているのだ。そして脳を失った身体には、今なおゴーストが宿っている！　彼らはただ己の意思を表明する手段をもたないだけなのだ。力なく横たわる肉体の虜囚……これほどおそろしいことがあるだろうか」

（会場がざわめく。サイバネティクスを研究するタタラ達が立ち上がり、カルヴァーニ博士を糾弾する）

「人間というものはひとつのシステムなのだ。ただ脳だけを機械にのせて、なぜ人間を移しかえたなどと思う!?　その傲慢が、サイバーサイコを生んでいるとわからんのか！」

「義体メーカーの口車にのって科学者としての良心を捨てた学会に対し、私ははっきりと……ええい、なにをする！　離せ、人類は必ずこの代償を支払う日が来るぞ……！」

◆描写

カルヴァーニ博士の姿が、壇上から消える。彼の仮説はかえりみられることなく、打ち捨てられた。それから、10年という月日が流れた……。

シーンを終了する。

●オープニング2：千早雅之の依頼

ルーラーシーン

登場：全員自動登場

◆解説

キャスト全員のオープニング。特定のシーンプレイヤーをもうけずルーラーシーンとして扱う。千早雅之が呼び集められたキャスト達に、任務の概要を説明する。

◆描写

キミ達は千早重工の社長室へと、呼び集められた。

全員がそろったのを確認すると、ミラーシェードの男は、静かに語り出す。

▼セリフ：千早雅之

「皆さんをお呼びしたのは他でもありません。チハヤ生体管理社で発生した事件の対処をお願いしたいからです」

「ご存じのように現在の社会には義体化技術が広く浸透しています。全身義体だけでなく、手足や臓器といった器官を、機械やクローンのそれに取り替えることはもはや日常です。そこで当然問題となるのが、不要となった生身の処分です」

「今日では不要となった生身は長期契約によって、専門の会社に冷凍保存をゆだねることが一般的です。千早グループにもそうした生体保管業務を行う会社があります」

「しかし、その施設内で重大な災害が発生しました。保管されていた無数の肉体が突如、人を襲い始めたのです」

「……冗談ではありません。まるでホラームービーのように、脳のない身体や切断された手足が動き始めたのです。生ける屍（リビングデッド）……いえ、生ける肉体（リビングボディ）と呼ぶべきでしょうか」

「事件発生と同時に、施設の主任技術者であるカルヴァーニ博士が犯行声明を出しています。『これは抑圧されたゴーストの革命である』とのことです。具体的な要求はいまだありません」

「施設内は今もリビングボディの支配下にあります。後方処理課のスタッフが内部への侵入を試みましたが、誰ひとり帰ってはきませんでした。そこでプロフェッショナルであるあなたがたをお呼びしたのです」

「この施設に潜入し、カルヴァーニ博士を確保してください。やむをえない場合は、生死を問いません」

◆結末

千早雅之はキャスト全員に1ゴールド（5報酬点）を手渡す。キャストが任務を開始したなら、シーンを終了する。

リサーチフェイズ

◎ ◎ ◎

RESEARCH PHASE

●イベント1：大群（バタリアン）

条件：リサーチフェイズ最初のシーン

シーンプレイヤー：任意

登場：キャスト全員自動登場

◆解説

キャスト全員登場。リビングボディの群れと交戦し、施設内を探索する(*1)。

登場したキャストはいずれかのアクション技能（社会技能は含まない）で、難易度15の判定を行う。

失敗したキャストはリビングボディの襲撃によって負傷する。リサーチフェイズの間、あらゆる判定の達成値が-2される。これはバッドステータスとして扱う。

なんらかの神業を使用した場合は、キャスト全員が判定に成功したものとみなす。

◆描写

チハヤ生体管理社の敷地は、小さな町ほどもある。複数の肉体保管所、研究所、社員寮がたちならぶ。そのあちこちを裸の人影がさまよっていた。

奇妙なうめき声をあげながら、行進をつづけるリビングボディ。やつらはキミ達の姿を見つけると、襲いかかってくる！

▼セリフ：リビングボディ

「ウウウウウウウウウ……ッ!!」

◆結末

キャスト全員が判定を終えたなら、シーンを終了。

(*1) N◎VAクルード：施設内を探索する

N◎VAクルードでは任意の［スタイル判定］を行う。

失敗したキャストはリサーチフェイズ終了時まですべての判定結果の序列が一段階下がる。たとえば「手札から出した適切なスートの字札」が「普通の失敗」として扱われる。

●イベント2：ユーアーヒーロー

条件：社員食堂のアドレスに向かった
シーンプレイヤー：任意
登場：〈社会：企業、テクノロジー〉／SR：グリーン

◆解説

リビングボディにおそわれる施設職員達を発見するシーン。リビングボディはエキストラであるため、宣言だけで倒すことができる。

施設職員は《タイムリー》を使用し、開発したアウトフィットひとつをいずれかのキャストに手渡す(*2)。プレイヤーは以下からひとつを選択すること。

・ロメロカリバー：リビングボディをばらばらにする小型チェーンソー。とりまわしは簡単で、女性や子どもでも気軽にボディハントを楽しめる。《死の舞踏》を一度使用できる。

・空間跳躍シューズ：短距離を移動するテレポーテーション装置。使用者の肉体を量子レベルで分解したのち、もとどおりに再構成する。しかしそうして再構成された自分は、本当に跳躍前と同じ存在だと言えるのだろうか？《守護神》を一度使用できる。

・エンドローラー：施設の制御系をのっとる非合法コントローラー。目盛りを300パーセントまでひねると、施設の電源がオーバーヒート。美しい結末を演出する。《天変地異》を一度使用できる。

これらのアイテムによって使用した神業は、所有しているキャストが使用したものとみなす。そのためうまく使ったなら経験点となる。

◆描写

チハヤ生体管理社カフェテリアにはバリケードが積み上げられていた。這い上がろうとするリビングボディ達を相手に、施設職員達が必死に応戦している。

▼セリフ：施設職員

「いやぁ、キミ達のおかげで助かったよ！　もうだめかと覚悟していたんだ」

「なぜこんなことになったのか、僕にもまったくわからないんだ。けど……そういえば保管された肉体のメンテナンスに、カルヴァーニ博士が新しいシステムをとりいれたんだ。筋肉の鮮度を保つ新発明だっていって、緑色のビームを浴びせていたっけ……もしかして、あれが原因なのかな」

「たぶんこれはゴーストの革命なんだ。カルヴァーニ博士の仮説は正しかったのかもしれない……」

（カルヴァーニ博士について）「あの人はもともとは研究者だった。でも、その仮説が認められずに第一線を退いたんだ」

「これを持って行ってくれ。僕がひそかに設計していた秘密メカさ。やつらに有効なのは実証済みだよ。商品化を狙ってるんだ。気に入ったら、社長にアピールしてよ！」

（※《タイムリー》を使用する）

「キミ達がカルヴァーニ博士をつかまえれば、事件は解決するんだろう？　僕らはあともう少しもちこたえてみせるさ」

◆結末

施設職員との会話を終えたなら、シーンを終了する。このシーンに登場したキャストはキーワードリンク【謎の光線】を得る。

『クロス・ザ・ライン』掲載の追加ルールを採用している場合、シーンに登場したキャスト全員に［ＳＰＳ：カルヴァーニ博士の革命を止める］を与える。

●イベント３：博士の狂気の夢想

条件：「●イベント２：ユーアーヒーロー」の直後
ルーラーシーン
登場：不可

◆解説

カルヴァーニ博士の狂気をえがく。(*3)

◆描写

それは、たぶん音楽だった。部屋の片隅に置かれたオルガンから、たどたどしいメロディがひびいている。

しかし、オルガンの前には誰も座っていない。鍵盤の上では切断された右腕と左腕が、ぴょんぴょん飛び跳ねているのだ。カルヴァーニ博士とリビングボディ達は、静かに耳を傾けている。

いつしか、音がやむ。リビングボディ達はまるで能面のように無表情。しかし、カルヴァーニ博士はひとり、熱に浮かされたように拍手を送った。

▼セリフ：カルヴァーニ博士

「すばらしい……すばらしい演奏だった！　ありがとう。そう、キミ達にはたしかに心がある。私はあらためて感じいったよ」

「なのに私達はキミ達をただの抜けがらだと断じ、ひどい扱いを続けてきた。すまない……どうか許してくれ」

「だがまもなくニューロエイジの人々は知ることになるだろう。自分達がいったいなにを犠牲にしてきたのかを！」

「さあ、革命のはじまりだ！」

◆結末

博士の激しい言葉に反応してか、肉体達はいっせいにうめき声を返す。

カルヴァーニ博士は狂気の笑みを浮かべる。シーンを終了する。

(*2) 開発したアウトフィット
これはシナリオに必要な防御系神業の勘定に含まれている。キャスト全員の防御系神業が１個の場合、必ず空間跳躍シューズ（《守護神》）を選択すること。

(*3) カルヴァーニ博士の狂気
リビングボディ達は高度な知性をもたず、既存社会への憤りや、革命の志などもっていない（ように見える）。しかし、カルヴァーニ博士はリビングボディの反応を、都合よく解釈し、みずからの思想を投影しているのだ。

リビングボディがカルヴァーニ博士の指示に従うのは、彼がクロマクのスタイルをもっているためだ。あるいは彼のことを“同族”だと理解しているからなのかもしれない。

■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

全員共通：施設内の状況、カルヴァーニ博士

なお情報項目名の頭にある記号は、N◎VAクルードにおいて、その情報を［能力判定］で調べる場合に使用するスートを表している。

各情報の数字は通常の判定での目標値、() 内の文字はN◎VAクルードでの目標となる結果序列だ。

(成：通常の成功／劇：劇的な成功／A：決定的成功)

♥施設内の状況

〈知覚〉〈社会：企業、テクノロジー〉

8（成） チハヤ生体管理社に保管されていた肉体がひとりでに動きだし、人を襲っている。

10（成） 動いている肉体には脳もIANUSもない。知能は低く、捕食のために人間を襲っているようだ(*4)。

12（成） 襲撃から逃げのびた人々が社員食堂に立てこもっている。事態の手がかりを握る人間がいるかもしれない。アドレスを入手する。

◆カルヴァーニ博士

〈社会：企業〉

6（成） チハヤ生体管理社の主任技術者。ペルソナはタタラ。

8（成） 人間のゴーストは全身の神経に宿っており、義体化で廃棄された生身にも、独自の自我が存在すると主張していた。これが義体メーカーの反感を買い、学会を追放された。

10（成） 近年の脱義体化の流れにより、一部にはカルヴァーニ博士を再評価する声もある。しかし、本人はさらに先鋭化した思想のもとに、ひそかに狂気の研究を進めていた。

12（成） 彼はすでに正気を失っている。

♠謎の光線

〈社会：テクノロジー〉

8（成） 保管された肉体に照射された謎の光線。カルヴァーニ博士の《タイムリー》によって開発された。通称カルヴァーニ光線。

10（成） 特殊な電磁放射線で、遺伝子変異を誘発し、器官内に神経節（しんけいせつ）を形成する(*5)。この人工神経節が筋肉に信号をだし、生きているかのように動かしている。カルヴァーニ博士はこれを「神経に宿るゴースト」の意思であると考えているらしい。

12（成） カルヴァーニ博士はこの発明を利用して、さらにおぞましい計画を立てているようだ(【カルヴァーニ博士の革命】)。

♣カルヴァーニ博士の革命

〈社会：企業、テクノロジー〉

14（劇） カルヴァーニ光線照射装置を、宇宙葬用のバルーンにのせてうちあげようとしている。一定の高度で爆発し、強烈な電磁放射線を発する仕組みだ。

もし実行にうつされれば、他の生体管理会社の肉体も動きだし、人を襲いはじめるだろう。また通常の人間が光線を浴びた場合、いかなる事態を引き起こすかは予測不可能だ。

16（劇） カルヴァーニ博士とリビングボディ達はヘリポートでバルーンを準備している。アドレスを入手する。

(*4) 捕食のために人間を襲っている

切断された腕だけなど、胃や頭部が欠如したリビングボディも徘徊している。そのような個体は、自身にパーツが欠けていることを理解していないかのように行動する。たとえば存在しない口元に、食べ物を運ぶ仕草を繰りかえしたりする。

(*5) 器官内に神経節を形成する

これは昆虫の身体構造によく似ている。昆虫は大脳だけでなく、身体中の神経節で分散して思考を行っている。大脳がなくなっても、各神経節だけで簡単な運動と学習を行うことができるのだ。

ただし、そこにゴーストが宿るのかどうか、宿ったとしてそれが本人のゴーストといえるのかは証明しようがない。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●クライマックス：ゴースト達の革命

◆解説

キャスト達はカルヴァーニ博士と対決する。

◆カット進行

カット進行が発生する(*6)。敵は以下のとおり。

・ボディソルジャー　　CS：10
・カルヴァーニ博士　　CS：8
・リビングボディ×1　　CS：4

トループの人数は20人とする。

キャスト達を1エンゲージとする。ボディソルジャー、カルヴァーニ博士、リビングボディ（チャクラ・トループ）をすべて近距離に配置する。カルヴァーニ博士は別エンゲージとなる。

◆描写

ヘリポートではバルーンリリースの準備がすすめられていた。リビングボディ達がのろのろとした仕草で動き回り、色とりどりのバルーンに装置をつなぎとめていく。そんな彼らの働きを、白衣の老人が満足げにながめていた。

キミ達がやってきたことに気づくと、カルヴァーニ博士はふりかえる。その瞳に宿るのは、静かな狂気……。

▼セリフ：カルヴァーニ博士

「諸君、革命のときがきた。今宵、人々はこれまで見えなかった隣人の存在に気がつくだろう。古き常識は葬り去られ、新しい社会が生まれるのだ！」

「私はマッドサイエンティストではない。心ある科学者だ。虐げられているものがいるのに、見捨てることはできない」

「キミ達はなにも感じなかったのか。健康な肉体が、サイバーアップという名目のもと、打ち捨てられていく光景を！　生まれもった手足や臓器が、自分自身ではないと本気で思っているのかね!?」

「彼らはこれまで己の存在を訴えることもできず、肉体の中で沈黙することしかできなかった。しかしこのカルヴァーニ光線が、彼らのゴーストを解放する！　彼らをつなぐ鎖は砕かれ、人としての自由を得るのだ」

「10年前、私は言葉によって、理解を求めようとした。しかしそれはかなわなかった。ならば、今度はキミ達の流儀にしたがおう。振り上げた拳によって、正当な権利を勝ち取るのだ！」

（倒れた）「私が倒れても、革命が終わるわけではない。現代社会は必ず、報いを受けることになるだろう……」

▼セリフ：ボディソルジャー

「ウーウー……！」

◆結末

カット進行が終了したなら、シーンを終了する。

(*6) N◎VAクルード：カット進行

ゲストの行動順は以下のようになる。

・ボディソルジャー：1番目
・カルヴァーニ博士：最後

N◎VAクルードではトループは登場しない。

N◎VAクルード用データ

カルヴァーニ博士

「人類は必ずこの代償を支払う日が来るぞ……！」

狂気のマッドサイエンティスト。「ゴーストは全身の神経に宿る」という異端の説をとなえ、大学を離れることを余儀なくされる。数年前からチハヤ生体管理社の技術主任となり、冷凍保存技術の維持管理を担っていた。しかし、その裏でひそかに研究をつづけ、ゴーストの革命を計画していたのだ。ニューロエイジのキング牧師を自認している。

▼スタイル
タタラ◎●、ミストレス、クロマク

▼神業
■タイムリー　□ファイト！　□腹心

▼カット進行で行うスタイル判定

♠タタラ：射撃攻撃
生身の冷凍保存装置を応用して開発された、冷凍ビームによってキャストを凍らせる。

♣ミストレス：精神攻撃
ゴーストにやさしい社会について演説し、キャストの感情に訴える。

♥クロマク：白兵攻撃
リビングボディ達がつめよせ、キャストを押しつぶす。

N◎VAクルード用データ

ボディソルジャー

「ウーウー……！」

カルヴァーニ博士の忠実なる戦士。戦闘用全身義体への換装によって捨てさられた、千早企業軍人のぬけがら。攻防一体の体技に通じている。常に弛緩した笑みを浮かべてはいるが、そこに人間としての感情の動きは読みとれない。

▼スタイル
カブト、カタナ、チャクラ◎●

▼神業
□難攻不落　□死の舞踏　□黄泉還り

▼カット進行で行うスタイル判定

♠カブト：白兵攻撃
キャストの攻撃に対して、クロスカウンターをはなつ。表情は笑顔。

♣カタナ：白兵攻撃
鍛えあげられた豪腕で、キャストを殴りつける。表情は笑顔。

♥チャクラ：白兵攻撃
関節が意思をもっているかのようにうねり、キャストをしめあげる。表情は笑顔。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

カルヴァーニ博士を倒したならば、千早の企業軍が施設に突入し、リビングボディ達を制圧する。

●エンディング1：ドーン・オブ・ザ・ゴースト

◆解説

キャスト共通のエンディング。千早雅之がキャスト達をねぎらう。そこで彼は奇妙な事実を話す。この事実について、シナリオ上で正解はない。自由に解釈すること。

◆描写

依頼を果たしたキミ達は、千早重工の社長室を訪れた。ミラーシェードの CEO は、キミ達にねぎらいの言葉をかける。

▼セリフ：千早雅之

「おつかれさまでした。皆さんの活躍によって、最悪の事態を回避することができました」

（カルヴァーニ博士を生きたまま確保した場合）「ところで拘束したカルヴァーニ博士ですが、翌朝には冷たくなっていたそうです」

「カルヴァーニ博士の遺体を検査したところ、奇妙なことがわかりました。彼の頭蓋骨の中には、脳がありませんでした。からっぽだったのです」

「おそらく彼の肉体もまた、義体化によって廃棄されたものだったのだと思われます。いつからそうだったのかはわかりません。“本物の”カルヴァーニ博士の行方については、現在調査中です」

「彼は気づいていたのでしょうか。自分もまた彼らの“仲間”だったということに……」

◆結末

人間とはなんなのか。ゴーストとはなんなのか。その答えは誰にもわからない。

シーンを終了する。

■ポストアクト

各々のエンティングを演出したならば、経験点の計算等、ポストアクトの準備に入る。［ＳＰＳ：カルヴァーニ博士の革命を止める］を達成していれば、経験点5点となる。

ポストアクト後、シナリオは終了となる。

シナリオ運用の指針

●シナリオのコンセプト

『汝の隣人（ゴースト）を愛せよ』はいわゆるゾンビ映画をモチーフとしたシナリオだ。しかし、その背景には義体化が進んだ社会の問題や、ゴーストのありかといった、ニューロエイジならではのテーマが盛りこまれている。

本シナリオは推奨スタイルといったものはない。おのおののプレイヤーが、お気に入りのキャストを持ち寄るとよいだろう。

●カルヴァーニ博士の仮説

カルヴァーニ博士の仮説について、基本的に本文に書いてある以上のことを説明する必要はない。とはいえ、プレイヤーがより深く聞いてくることもあるだろう。参考のために、以下に簡単に補足する。

カルヴァーニ博士の考えは、ゴーストが神経細胞の密度に応じて、グラデーション状に発生するというものだ。脳は中枢神経系でもっとも複雑な箇所ではあるが、唯一の存在ではない。脊髄から末端神経にまで、薄くのびるようにゴーストが及んでいるというのが、彼の提唱する生物のありようだ。

また脳には損傷した領域の機能を、他の領域に代替させるという現象がみられる。人体にはある程度の可塑性 <R：かそせい＞ が確保されているということだ。同様に脳がもつゴーストという機能に、神経系全体がバックアップを準備しているとしても不思議はない。

もちろん、上記の主張が正しいかどうかは証明できない。またカルヴァーニ博士は、ゴーストの有無について議論されているマキノイドに対しても同情的な態度をとる。

●プレイヤー２人用のバランス調整

このシナリオはプレイヤー２人でプレイすることが可能である。その場合は以下のバランス調整を推奨する。

▼クライマックス１：ゴースト達の革命

・リビングボディ（チャクラ・トループ）を削除する。

・キャストが２人の場合、カルヴァーニ博士の《腹心》の効果は、『TOS』P36 の「ゲスト（ボディソルジャー）を取得する」に変更されており、ダメージを治癒する効果では使用できないとする。このことはカット進行開始時に、プレイヤーに宣言すること。

またキャストに戦闘で使用できる神業が少ない場合、さらに以下のバランス調整を行ってもよい。

▼クライマックス１：ゴースト達の革命

・カルヴァーニ博士は神業のみをもつゲストとして扱い、カット進行には参加しない。

カルヴァーニ博士

タタラ◎●、ミストレス、クロマク

▼設定

「人類は必ずこの代償を支払う日が来るぞ……！」

狂気のマッドサイエンティスト。「ゴーストは全身の神経に宿る」という異端の説をとなえ、大学を離れることを余儀なくされる。数年前からチハヤ生体管理社の技術主任となり、冷凍保存技術の維持管理を担っていた。しかし、その裏でひそかに研究をつづけ、ゴーストの革命を計画していたのだ。

▼神業

■タイムリー　□ファイト！　□腹心

▼能力値／制御値

♠理性：５／12　　♣感情：９／13
♥生命：３／８　　◆外界：７／15

▼戦闘データ

【CS】　８　　【AR】　１
【防御力】S：１／P：１／I：２

▼一般技能

３♠♣♥◇　★心理

▼スタイル技能

５♠♣♥◆　おしおき　(TNX188)
２♤♣♡◆　†加速装置　(TNX187)

▼アウトフィット

・アーマージャケット……電：12／隠：12（TNX238）
防（S／P／I）：１／１／２

・L2M……電：18／隠：18（TNX241）
マイナーで使用。メインプロセスの間、〈心理〉判定の達成値+1。

・WIZ-X……電：12／隠：13（TNX244）

・リヴァイアサン……電：13／隠：18（TNX245）
精神攻撃で与える精神ダメージに常に+4する。

▼戦闘プラン

セットアッププロセスで〈加速装置〉を使用。ボディソルジャーの【CS】をカット終了まで＋［判定に使用したカードの数字］する。

マイナーアクションでL2Mを使用。メジャーアクションでは〈心理〉〈おしおき〉を組み合わせ、近距離までの対象に精神攻撃を行う。判定値は+1、ダメージは11。

《ファイト！》はボディソルジャーの《死の舞踏》を増やすために使用する。

キャストが２人の場合、カルヴァーニ博士の《腹心》の効果は、『TOS』P36の「ゲスト（ボディソルジャー）を取得する」に変更されており、ダメージを治癒する効果では使用できないとする。このことはカット進行開始時に、プレイヤーに宣言すること。

ボディソルジャー

カブト、カタナ、チャクラ◎●

▼設定

「ウーウー……！」

カルヴァーニ博士の忠実なる戦士。戦闘用全身義体への換装によって捨てさられた、千早企業軍人のぬけがら。攻防一体の体技に通じている。常に弛緩した笑みを浮かべてはいるが、そこに人間としての感情の動きは読みとれない。

▼神業

□難攻不落　□死の舞踏　□黄泉還り

▼能力値／制御値

♠理性：９／13　　♣感情：３／13
♥生命：９／15　　◆外界：３／７

▼戦闘データ

【CS】　10　　【AR】　１
【防御力】S：０／P：０／I：０

▼一般技能

３♠♣♥◇　★白兵
２♠♤♥◇　★回避

▼スタイル技能

２♠♤♡◆　金剛　(TNX190)
１♤♤♡◇　居合い　(TNX204)
３♠♤♥◆　†カバーリング　(TNX191)
３♠♣♥◇　†修羅　(TNX205)
３♠♣♥◇　†功夫　(TNX211)

▼アウトフィット

・生身……電：-　／隠：-　(TNX232)
攻：I+0　受：0　射程：至近

・ウェット……電：－　／隠：－　(TNX258)

▼戦闘プラン

メジャーアクションでは〈白兵〉〈功夫〉〈修羅〉を組み合わせて至近距離までの対象に白兵攻撃。判定値は+1でダメージは［I+9］＋［差分値ダメージ］。

肉体ダメージを受けた場合は、〈金剛〉によって［判定に使用したカードの数字］点軽減する。１カット１回まで。

また、カルヴァーニ博士が肉体ダメージを受けた場合は〈カバーリング〉によってダメージを引き受ける。１カット３回まで。

リビングボディ

チャクラ６レベルトループ（人数：20人）

▼設定

カルヴァーニ博士の発明品によって動き出した肉体。知能は低く、本能のままに人間に襲いかかり、その肉をむさぼる。しかし敵味方は理解しているらしく、クロマクであるカルヴァーニ博士の指示にはある程度従うようだ。

▼能力値／制御値

♠理性：８／11　　♣感情：８／11
♥生命：９／11　　◆外界：６／７

▼一般技能

３♠♣♥◇　★白兵

▼スタイル技能

３♠♣♡◆　†乾坤一擲　(TNX211)

▼戦闘データ

【CS】　６　　【AR】　１
【防御力】S：０／P：０／I：０

▼アウトフィット

・生身……電：-　／隠：-　(TNX232)
攻：I+0　受：0　射程：至近

▼戦闘プラン

メジャーアクションに〈白兵〉で近距離の対象に物理攻撃。ダメージは［I+0］。ダメージ算出時に〈乾坤一擲〉を使用。与えるダメージに＋［判定に使用したカード］する。ただし〈乾坤一擲〉を使用した後、［BS：恐慌］を受ける。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/UL_NOVA/html）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

Neuro／CrowD

投稿シナリオ No.UL007 『汝の隣人（ゴースト）を愛せよ』

発行日：2016.6.23

執筆（著作権者）　あるばがると
イラスト　なし

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/UL_NOVA.html